



歴史の哲学①(2003年) (そこから未来を見る)

7月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2024年7月1日(月)

二つの大戦を知るドラッカーの**今日の大転換**を洞察した言葉。

大転換期の到来、知識革命、NPOの役割、政治の変容、経済政策、**歴史に学び大局をつかむ**。

私は**歴史家ではない**。歴史家が目指すことは、過去を明らかにすることである。私が目指してきたことは、**現在を理解し、そこから未来を見る**ことである。そのために過去を知ることである。

なぜなら、国にせよ、企業や大学などの組織にせよ、自らの過去を未来に向けて活かしてこそ、成功への道を進むことができるからである。

その典型が**明治維新の時の日本**だった。

人は、日本の**西洋化**を論ずる。だがそれは**西洋の日本**くらいだった。

日本は、理論、制度、手続の一切を輸入した。しかし日本は、それらのものを自らが育んできたシステムと構造、すなわち江戸の社会の文化に組み込んだ。明治維新の成功は、**西洋の日本化**という視点によってのみ理解が可能である。

平坦な大地にも、上り下りする峠がある。それは単なる地形の変化ではない本当の境界がある。

特に高くなるわけでも、目をひくわけでもない。例えば**ブレンネル峠**は、アルプスで最も低く、緩やかだが、古くより地中海文化と北欧文化を分けてきた。**歴史にも境界がある**。目立つこともない。

その時点では気づかれることもない。だがひとたび越えれば、社会的な風景と政治的な風景が変わり、気候が変わる。言葉が変わる。**新しい現実が始まる**。1965年から73年のどこかで、世界はそのような境界を越え、新しい次の世紀に入った。

数100年に一度、際立った転換が起こる。**世界は歴史の境界を越える**。社会は数10年をかけて、次の新しい時代のために準備する。世界観を変え、政治構造を変える。技術と芸術を変え、機関を変える。**やがて50年後には新しい世界が生まれる**。

境界を越えた後の世代にとって、祖父母の生きた世界や父母の生まれた世界は想像できないものとなる。

我々は今、そのような転換期を経験している。この転換は2020年代まで続く。